



目 次

支部長ごあいさつ	(89、H10年卒) 高瀬 明子	1
総会での話題提供①「免疫「から」体を守る仕組みの解明」	(84、H9年卒) 佐藤 卓	2
総会での話題提供②「自治する人々を増やしたい！“市民政治ネットワーク運動”とは」	(84、H9年卒) 小森谷さやか	2
寄稿 マスターズスキー競技会	(49、S36年卒) 川上 惇	3
寄稿 アラフィフ世代	(83、H8年卒) 坂本 晋也	4
寄稿 卒業	(78、H3年卒) 坂東 裕志	5
寄稿 ドバイに転勤	(89、H10年卒) 岡 常夫	6
寄稿 短く長い2年目を終えて感じたこと	(10、R2年卒) 大賀 英司	7
寄稿 社会人1年目の奮闘	(10、R3年卒) 佐藤 清史	8
ゴルフクラブ便り	(55、S43年卒) 石橋 嘉夫	9
令和3年度首都圏支部活動報告・支部役員		11
令和3年度会計報告、令和4年度予算(案)		13
令和3年度 支部年会費納入者一覧		14
編集後記		17
令和4年度首都圏支部総会案内		18
首都圏支部web懇親会(3月26日)写真		19



## 2022年度（令和4年度）も宜しくお願いいたします

富山薬窓会首都圏支部長（㊟、H10年卒） 高瀬 明子

首都圏支部の皆様、いかがお過ごしでしょうか。桜が咲き誇り、「首都圏遠久朶」の編集時期となりました。お忙しい中ご寄稿いただいた方々、誠にありがとうございます。皆様のお手元に届く頃は、新型コロナウイルス感染症や国際情勢が好転し、心穏やかに新緑の季節を迎えられているようお願いしております。

昨年6月の富山薬窓会首都圏支部総会（Web開催）にて支部長を拝命してから、もうすぐ1年となります。58～105回卒にわたる幅広い年齢層となった、心強い新体制の役員メンバー（16名）と力を合わせ、首都圏支部の皆様ならびに関係各位のご協力により様々な取り組みを行ってまいりました。ご協力で御礼申し上げるとともに、以下にいくつかご紹介させていただきます。

新たな試みの1つとしては「Zoomでの集い」です。Web開催の総会では懇親会が行えないので、実は、6月の総会の最後にZoomの「ブレイクアウトルーム」を活用して同世代などの少人数で話せる場を設けようとしていたのですが、残念ながら当日はその時間を確保できませんでした。行動制限が長期化する中、首都圏支部の皆様が交流できる場を提供できたらとの思いから、11月にまず第1回目を、次いで本年3月に第2回目を開催しました。どちらの会も、大先輩の46回卒から最若手の社会人1年目の108回卒にわたる様々な年代の方に、そして首都圏以外からもご参加いただき、盛り上がりしました。総会と同日では十分な時間を設けることが難しいため、令和4年度も総会とは別日程でこのようなオンラインの交流会を企画したいと考えております。一方で、パソコンやスマートフォンを使っていない方やWeb会議がお好きではない方もいらっしゃると思いますし、やはり、できるなら直接集える機会がよいのはもちろんです。感染状況の見通しを立てることは困難ですが、状況次第では、総会を現地とWebとのハイブリッド形式で開催したり、東池袋の美味しい牛タンやさん・多津よしでの「三金会」を再開したり等（ご担当：前支部長の中西さん）、より多くの方に首都圏支部の活動にご参加いただけることを目指して進めていきたいと思っております。

また、2019年3月までは富山大学薬学部卒の卒業記念謝恩会に首都圏支部長／副支部長／幹事長が出席し、首都圏に来られる予定の学生さんに直接お声掛けしてつながりを作る貴重な機会がありましたが、コロナ禍以降叶わない状況が続いております。そこで、本年は、富山大学薬学部長の酒井先生のご厚意により、卒業式にて、卒業生／修了生に対して案内状と動画で首都圏支部のご案内をさせていただきました。これをきっかけに首都圏支部の活動に参加される新卒者が増えることを願いつつも、やはり、お知り合いの方からの誘いが何より安心と思っております。皆様には、職場や、大学時代の部活動／研究室でのつながりのある方々とお誘い合わせの上、ぜひ首都圏支部の活動への最初の一步を踏み出していただけると幸いです。

最後になりますが、昨年の総会でご承認いただいた年会費の値上げ（2,000円）につきましては、多くの方々にご理解賜りまして、誠にありがとうございます。本年も引き続き宜しくお願い申し上げます。

2022年度（令和4年度）も、首都圏支部へのご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。まず6月の総会では多くの皆様のご参加をお待ちしております。

## 免疫「から」体を守る 仕組みの解明

(64、H9年卒) 佐藤 卓

組織幹細胞は、生体内の各臓器や組織にごくわずかに分布し、全ての組織構成細胞を供給する「組織恒常性の要」となる細胞集団です。したがって、その数や性質は、個体の生涯を通じて適切に維持される必要があります。

哺乳類の小腸や大腸の表面を覆う、たった1層の上皮細胞層は、食物の消化や、栄養・水分の吸収を行うのみならず、腸内細菌や病原菌などの体内への侵入を防ぐ、第一線のバリアとして機能しています。生命維持において重要なこの腸管上皮組織を常に健常に保つために、上皮細胞はわずか3～5日で全てが新しい細胞に置き換わりますが、この活発な新陳代謝を可能にしているのが、腸管上皮幹細胞 (Intestinal stem cells: ISC) を起源とする細胞供給システムです。近年の研究から、ISCの数や性質は、生体内微小環境において、幹細胞周囲の細胞が供給する多彩な分子の働きによって保たれていることが明らかになっています。一方、ISCsを含む組織幹細胞は長寿命の細胞であることから、その機能を維持し続けるために、生体内に生じる様々な“ストレス要因”を回避する戦略を備えていると考えられますが、その側面については、これまでにほとんど明らかにされていません。

I型インターフェロン (IFN) は、ウイルスに対する生体の防御応答の中心を担うサイトカインです。感染により、免疫細胞のみならず、線維芽細胞など様々な細胞から一過的に分泌され、周囲の細胞に作用することで抗ウイルス蛋白の発現を誘導する働きがありま

す。興味深いことにウイルス感染がない生体内や培養細胞でも、ごく微量ながらI型IFNが分泌されていることが知られています。実は、この微弱であるが恒常的なI型IFNシグナルの活性化は、ウイルス感染に対する備えとして、宿主のIFN生産ラインを常にスタンバイ状態に保つために重要であることがわかっています。われわれは最近、生理的に腸管で分泌されるI型IFNが、腸上皮幹細胞機能を低下させる生理的ストレスであることを見出しました。また、ISCにおいて、このIFNストレスを回避するために必須の分子メカニズムを明らかにしました。

本講演では、私共の最近の研究内容を中心に、最近の組織幹細胞研究について話題提供ができたらと思っております。

## 話題提供②

### 自治する人々を増やしたい！ “市民政治ネットワーク運動”とは

(64、H9年卒) 小森谷 さやか

茨城県つくば市という縁もゆかりもなかった土地で、市議会議員を務めさせていただくことになってから6年目となりました。地盤も看板も鞆もない、一介の主婦の私がなぜ政治の世界へ飛び込むはめになったかという、つくばに「市民政治ネットワーク運動」があり、そこへ3.11が起こったからでした。

「市民政治ネットワーク運動」は地域政党 (ローカルパーティ) のネットワーク (以下、ネット) なのですが、ある共通の理念があります。

ひとつは「代わりあうことで広げる市民政治」。各地域ネットの議員は2期～3期で次の人に交代します。議員の任期が長いと往々にして既得権益が生じ、政治の腐敗につながる

からです。また、生活者としての暮らしの感覚をまっすぐ地方政治に反映していくためにも大事なルールになっています。さらに議員経験者は引退後、その経験を市民活動に生かすことで、市民がつくるまちづくりの輪がいつそう広がります。

もうひとつは、「議員の報酬を市民政治に生かす」。

政治不信の多くは、政治とお金の関係から生まれています。利権政治をなくすために、私たちはカンパとボランティアで選挙を行っています。議員報酬は法に基きネットに寄付され、お金の流れを公開しています。集まった資金で勉強会を開催したり、視察に行ったりと市民政治を広げる活動を行い、資金を持たない普通の市民が立候補することを可能にしてきました。

最後に「参加型政治で政治文化を変える」。

日本の中央集権、官僚政治、利益政治に対し、市民参加型政治で市民自治を広げ、議会に議員を出すだけでなく、その議員とともに自治する人々を広げることで、政治文化を変えていきます。自分の生活にかかわる多くのテーマが政治課題であることに気づき、課題解決のために参加と責任を負う人々を増やしていけば、おのずと国の政治も変わるはずで

す。ネットは各地でこの自治の活動を多様なテーマで進めており、つくばでは2003年に「つくば・市民ネットワーク」が立ち上がりました。そして3.11が起きた頃はちょうど初代の2人の代理人が引退して次の代にバトンタッチをしよう、という時期でした。

翻って私は、政治には何の興味もなくニュースもほとんど見ていなかったような人間でしたが、3.11をきっかけに大きく視点が変わっていました。長男がちょうど小学生に上がる年で、次男はよちよち歩き。この子達に何を食べさせたら良いのか？普通に外遊びをさ

せて良いのか？という心配から放射能のことや原発のことを調べていると、この世の中には大手メディアが流す報道と、そうではない報道があること、そして多くのフェイクニュースに溢れていることに気がきます。自分のように子育てとパートの仕事に追われているような母親が多いこのつくばで、私たちが知らされていない正しい情報をママたちに伝えなきゃ！と一念発起した私は、保育園のママ友たちと一緒にチラシをつくってポスティングしたり、放射能汚染にまつわる映画の自主上映会をしたりするようになりました。

そんな活動をしていく中で、つくば・市民ネットワークが行う調査活動や勉強会は貴重な情報源でした。次第に一緒に活動することが増えていく中で2016年の選挙で代理人に挑戦してみないか、と声がかかり、現在に至っています。

現在つくば・市民ネットは、28議席中4つの議席を確保し、日々活動しています。今年は茨城県議選にも候補者を出し初当選を狙っています。全国的に見るとちょっと元気がなくなっているネットワーク運動ですが、つくばのパワーをダシに各地で盛り上げてほしい、広がって欲しいです。皆さんのまちでもネットワーク運動、始めませんか？いつでも応援にかけつけます！

## マスターズスキー競技会

(㊤、S36年卒) 川上 惇

新型コロナウイルス感染拡大防止のため十分なスキーができなくなった。それでもいくつかのマスターズスキー競技会に参加してアルペン競技(回転、大回転)を楽しんでいる。マスターズスキーは、35歳から参加でき、5歳刻みか10歳刻みの組の中で競い合うスキー競技である。私は40歳代後半から参加して、

83歳になる今シーズン（2022年度）まで続いている。

富山大学に入学してまず山岳部に入った。あまりにも立山、劔岳などが美しかったからである。冬にはスキー部に入ってディスタンス（クロスカンントリー）競技に出場した。社会人となってスキークラブ「アルピナグループ」に所属した。このクラブに入ったお陰でスキー仲間ができ、今日までスキーを続けることができたものと思っている。クラブの合宿やスクールで基礎スキーを習ったが、そのうちにアルペン競技に参加することになった。

大学スキー部の時は走るスキーだったので、旗門をくぐるアルペン競技は憧れであった。クラブの先輩とともにマスターズスキー競技会に参加してアルペン競技の楽しさを知り病みつきになってしまった。

毎年参加するスキー大会は決まっていたようなものである。2021年度からは新型コロナに対する「健康確認書」を提出することによって参加が認められる。まだまだ参加し続けたいと思っている。

- ①「FIS南関東ブロックマスターズ尾瀬戸倉大会」（1月開催・大回転二連戦）  
上越国際スキー場が雪不足のことが多いので、今年は尾瀬の入り口にあるスキー場に会場を移した。雪が多く気温が低かったので、ガリガリのコースに苦労した。
- ②「FIS南関東ブロックマスターズ菅平高原大会」（2月開催・回転二連戦）  
オオマツゲレンデのグランプリコースは、長いタフなコースであり、50旗門もあるのでくたびれる。昨年は順調に滑ってきたが、ゴール直前の旗門を間違えて失格。今年は完走したので、良しとする。
- ③「富山スキーマスターズ大会」（2月開催・大回転）  
富山市の牛岳温泉スキー場で行われた。最

近は富山大学の体育のスキー実習でこのスキー場が使われている。富山大学スキー部OBが5、6人参加し、応援に3、4人が来てくれるので、前日はにわかOB会となった。

- ④東京都スキー連盟の「クラブ対抗競技会」（3月開催・回転）  
菅平高原スキー場は東京都スキー連盟の行事でよく使用される。クラブ対抗競技会であるので、入賞するとクラブにポイントが入り団体賞が決まる。昨年は私の入賞で1ポイント入り、わがクラブは29位に名を残している。
- ⑤「東京スキーマスターズ競技会」（4月開催・回転と大回転）  
かぐら・みつまた高原スキー場で開催。シーズン最後の春スキーの競技会は和気藹々として楽しい。翌年の再会を約束して今シーズンのスキーを終わりとする。シーハイル！

## アラフィフ世代

(83、H8年卒) 坂本晋也

1992年入学の坂本晋也です。平岡君の勧めで投稿しました。

さて、アラフィフになりました。その頃と今では価値観が劇的に変化し、多様化も進んだと思います。1973年生です。第二次ベビーブームど真ん中です。仕事面では同じ仕事に従事しベテランの域の人、転職などで幅広い分野で働いてきた人など。生活面では、独身、結婚、離婚、子育て、介護など。健康面では、目がかすんだり、肩腰が痛くなったり、病気になった人など。卒後各人の経験・人生模様があるかと思っています。語れるほど立派ではないですが自分の人生例を紹介します。

薬学部（生物化）、修士課程を修了後、化粧品会社へ就職。大学病院薬剤部に転職し、そ

こを縁として医学部へ。今は麻酔科医として働いています。振り返ると薬学部の王道は歩んでいないし、1つの道を深く極めていませんが、割と幅広く生きたと思います。要は適当なのですが、必要に迫られて努力し何とかやってきてしまったのかもしれませんが。その中で富山医薬大で得た知識・経験・考え方が基礎となり非常に役立っています。個人的には薬学知識は基礎的なマイクロな領域の知識と思います。それを駆使すると日常生活を奥深く・マニアックに生きられると思います。例えばコロナワクチンを接種の可否の判断は、免疫学系の講座に在籍していなくても、薬学部で得たミクロ的視点な知識からその判断ができるのではないかと。また、臨床で薬物治療の際、常に薬から治療を考える思考回路は薬学部独特なのかなと思います。

去年山登りを始めました。富山在学中に登山に目覚めていれば、立山などを登っていたかもしれません。今年度も精力的に山登りを沢山しようと思います。

歳取ると保守的な傾向はでてきますが、アラフィフでも体力的・精神的にもまだまだいけると思うので、新しい分野にチャレンジできます。が、体力は確実に落ちているので無理せず。各世代の皆様の参考になればと思います。

## 卒業

(㊿、H3年卒) 坂東裕志

27歳の時に初めて転勤で東京に出た際に、「薬窓会の総会に来てよ。」と同期の中村君から誘われていたものの全く耳を貸さず、首都圏支部の活動へ参加しなかったことは、今思っても痛恨の選択でした。

時を経て、今の会社に転職&単身赴任し、薬窓会首都圏支部前支部長の中西さんに強引

に拉致され「多津よし」を訪れたのが、今から遡ること約10年前です。

その際の「牛タンの美味さ」と当時の中西さんがまだ「首都圏支部の名簿上、まだ若手とも言える事実」を知り非常に驚いたものです。

首都圏支部では「若手の会」と勝手に呼んでいた集まりに参加していました。あのころは飲み会だけでなく、東京湾クルーズ、スキー、ゴルフに行ったりして楽しかったなー。

そんな私も、もう53歳。

53歳と言えば、その昔なら、もうすぐ定年と言っても過言ではありません。

入社当時、新人研修の際に目標を聞かれ「社長です」と大口をたたいた私ですが、結局、大した爪痕も残さず、この年までだらだらと生きてしまいました。

大学を卒業してから30年近く過ぎてしまい、私の輝きは完全に薄れ（そもそもあったのか?）、輝きを増したのは頭だけ。人の名前を思い出せないのは当然として、仕事は新たなことを覚えたと思ってるそばから、もっと重要なことを忘れていく。二郎系ラーメンは食べられなくなってきたのに、逆に体のおいが豚骨スープに近くなってきた。大学を卒業した子供達はパパを頼らなくなり、嫁さんからは、ずっと前から頼られていない。

何て、しがないサラリーマン人生。嗚呼。

そんなしがない単身赴任10年のオジサンに、この度「トヤマニカエレ」という赤紙ならぬ、人事異動通知が届いてしまいました！

そこで私は、2022年3月に薬窓会首都圏支部を卒業します！！

これまで薬窓会首都圏支部の皆様には大変お世話になりましたが、この会で皆さんに会えた喜びを胸に富山に帰ることとします。

皆さん本当にお世話になり、ありがとうございました。

富山に行ったら、まずは帰った報告を小中

高大学の同級生に知らせ、歓迎会を2か月くらい毎晩のように開いてもらうことになるでしょう。また大好きなゴルフの会員権を買い、ゴルフに打ち込み今年中のシングルを目指すこととします！

そして昔の輝きを取り戻すぞ！オー！

仕事とのことは、ここでは言わないください。きっと、つら〜い現実が待ってるに違いないので。。

さらばじゃ、TOKYO

## ドバイに転勤

(㊦、H10年卒) 岡 常 夫

私が勤務している会社は製薬メーカーなのですが、普通の製薬メーカーと少し違って、医薬品・医療用機器・光学機器などのメーカー部門と総合商社部門がございます。2000年に大学院を修了し、今の会社に入社してから医薬品関連の部署で17年間勤務していましたが、その後1年間のアメリカ研修を経て、総合商社部門に異動となりました。商社部門では、主に医薬品や化粧品、工業用化学品の原料の輸出入・売買に携わっておりました。

2021年の春にドバイへの海外赴任が決まり、6月末に着任しました。総合商社部門の異動で赴任しておりますので、取り扱う商材は医薬品や化学品のみならず、衣料用生地、



帰宅時の夕日

建築材料や加工食品原料など多岐に渡ります。もはや「薬」とは大分かけ離れた商材を扱っております。

ドバイは、アラブ首長国連邦(UAE)の一つの首長国になります。ドバイに来る前は「お金持ちの国」というイメージがありましたが、実際に来てみるとお金持ちばかりではありません。ドバイの人口は約300万人ですが、自国民は1割しかおらず9割が海外からの移住者で、インドやパキスタン、バングラディッシュ、フィリピンからの出稼ぎ労働者が8割を占めております。その出稼ぎ労働者の年収は100万円にも満たないそうです。お金持ちの国で物価が高いイメージがありますが、そういった人達も生活できているように生活必需品はそれほど高くはありません。ただ、それなりの場所での外食、好立地の住居、高級品、遊興費は割高です。

中東は砂漠で暑いイメージがあると思いますが、ドバイの冬は最高気温が25℃くらいで快適です。しかし、春には35℃を超え、夏には50℃になる日もあり日中は外に出たくなくなります。したがって、こちらではビタミンDが欠乏するそうです。雨は年間3日ほどしか降らないので、そういった意味では気候は安定しています。

ドバイは世界一の超高層ビル「ブルジュ・ハリファ(828m)」など世界最高・最先端を追究し、世界から人を引き付けることで経済を活性化させています。昨年10月から中東初の万博「ドバイ万博」が開催されており、来場者数は既に2,000万人を超え大盛況です。来年にはタクシーの自動運転が開始される予定です。建物も道路も常に建設中で日々変化していきます。脱炭素社会に向けて産油国である中東諸国も再生エネルギーへの転換を押し進めています。石油由来の素材も転換期を迎えようとしています。我々商社にとっては、その変化こそがビジネスチャンスです。「薬」

とはあまり関係ない仕事に取り組んでいます  
が、中東に富山医科薬科大学（富山大学）薬  
学部の爪跡を残せるよう、しばらくドバイで  
頑張ろうと思います。



ブルジュ・ハリファ

## 短く長い2年目を終えて 感じたこと

（㊦、R2年卒） 大賀英司

この度は本誌に寄稿する貴重な機会をいただき誠にありがとうございます。第107回卒生の大賀英司と申します。学生時代はがん細胞生物学研究室にて櫻井宏明教授の下で日々研究活動を行っていました。現在は製薬会社の製造職として勤務し、製造職視点から何か伝えることができればと書かせていただきたく存じます。

私にとって最も大きな変化が訪れた年は社会人2年目でした。私は経口剤の中でも打錠グループに配属され、弊社の打錠グループは4人が適正人数と考えられています。私が社会人1年目3月時点は先輩社員が3人いましたが、2番手の先輩社員が他グループに異動となり、4月より新入社員が配属されました（研修の都合上、新入社員の正式配属は6月

です）。4月に入り打錠グループは3人体制へと代わり、業務に勤しんでましたが現2番手の先輩社員の体調不良が発覚して5月の時点で打錠グループは2人となりました。後日談で明らかになった話ですが、先輩は心の病でした。当時の私は彼の病に気づくこともできず、もっと周りに気配りができればと今でも後悔しています。話は戻り、5月の時点で打錠グループは新入社員が正式配属されるまで2人になり、気づけば私は1年経たずにグループの2番手になっていました。単純計算で業務量が2倍になり、更に新入社員の教育が入り、打錠グループリーダーも過労で視界不良になり休むことが度々ありました。他グループが助けてくれることもありましたが、週に3-4時間あれば良い方でした（それでも非常にありがたかったです）。

製造職にとって薬の安定供給は義務であり、信頼そのものだと会社も私も考えています。そのため、例え社員が4人でも1人でもグループとして求められる生産量は何一つ変わりませんでした。どうにかして工程を回す必要があるため、作業の効率化、手順の習得を急ぎ、打錠行程作業を全て実施できるようになりました。教育期間は半年で終わり、2年目下期は教育する側として仕事ができるようになったことも作業効率として大きかったと思います。あの時の辛さがあったから、自信が付いたとともに周りの信用が得られたのだと感じます。今では先輩社員は復帰し、新入社員も成長したため、心から安心していきます。

製造職は研究職や開発職と比べて地味で同じ作業の繰り返しだと思われるかもしれませんが（私自身そう思っていました）。しかし、実際は設備部品の消耗や気温、気圧、湿度、造粒品の影響により同じ条件で打つことの方が非常に稀です。打錠機、粉取機、錠剤搬送装置等の稼働音の違い、打錠機フィーダー内で

の粉末の流動性、粒子径の違いによる白への充填量変化、それに伴う溶出の変化等、目に見えにくい部分が日々変化します。同じ作業を繰り返すのではなく、“同じ作業ができるため”に私達は異変を感じ取り、事前に問題を防いでいると考えています。また、製造職では実際に目に見える形で社会に貢献することができます。私は毎日500万錠程製造していますが、私が製造した錠剤を患者様が服用していると思うとやりがいを感じます。製造量が多く仕事が作業になりやすいため、患者様のために製造していることを肝に銘じ作業することを心がけています。日々研鑽する日々であり、毎日充実した日々を過ごせています。

本論では現場作業に焦点を当て、話を展開させていただきました。勤務内容としては主に粉末と機械に向き合っていることが大半となり、大学で学んだ知識を活かすことはほぼありません。しかし、研究室では問題に対しての対処法について深く考える時間を十分にとっていただきました。【魚を与えるのではなく釣り方を教えろ】と言いますが、研究室生活で学んだ考え方は私にとって貴重な財産です。改めて、周りの方に恵まれていたと感じているとともに、今後も繋がりを大事に生きていきたいと思えます。

最後に、首都圏遠久朵で私のお話をさせていただき機会をいただきましたことを改めて感謝申し上げます。三金会の皆様の発展と薬総会首都圏関東支部の益々のご発展をお祈りいたします。

## 社会人1年目の奮闘

(㊦、R3年卒) 佐藤清史

皆様、初めまして。令和3年に博士前期課程を修了いたしました佐藤清史と申します。この度は首都圏遠久朵へ寄稿の機会をいただ

き誠に感謝しております。大学・大学院時代は、病態制御薬理学研究室で笹岡利安教授、恒枝宏史准教授、和田勉講師のご指導の下、“睡眠による糖代謝の改善効果”や“嗅覚と脂質代謝の連係機構”について研究を行ってまいりました。現在は外資系コンサルティングファームにて、ヘルスケア業界向けのマーケットリサーチとコンサルティング業務に携わっております。

1年目の新人コンサルタントとしての日々は、自身の実力不足を痛感する毎日でした。あるプロジェクトで、どのような観点で市場データを分析すべきかを考える場面がありました。私は非常に稚拙なアイデアしか出せず、その根拠にも明確なロジックはありませんでした。恐る恐る上司にアイデアを伝えると、稚拙であることは仕方ないとしてもロジックの弱さが問題だと指摘され、思いつきで仕事をするな！と厳しく叱責されました。また、データの分析結果について社内でプレゼンテーションをさせて頂いたときは、プロジェクトの責任者に対する説明としては内容が不十分とされ、今のプレゼンは0点だと告げられたこともありました。プロジェクトの中で自分のvalueを発揮することができず、失意に沈んだ日も少なくありませんでした。

現在はこのような状況から脱却すべく、能動的に自身の担当タスクを増やすことに取り組んでいます。プロジェクトの全体像をディテールまで把握しなければならない状況を強制的に作り出すためです。このような状況に身を置くことで、作業ベースではなく目的志向で仕事を進める力をつけていきたいと考えています。

「医療の現状を打破する志を持って、単なる武器商人にならない努力をなさい」。これは、私が入社して初めてアサインされたプロジェクトで上司にいただいた言葉です。コンサルタントは各企業の競合の上で成り立って

いる職種であるから、利益の追求だけでなく、競合の先にある新しい医療の実現を目指してほしいと言われました。これは私の信念になっています。いつか私が医療の新時代を築く一助となることを夢見て、社会人2年目以降も精進していきたいです。

## ゴルフクラブ便り

一年間延期されたオリンピック、パラリンピックが無観客の下ではあるが終了した。一方、コロナ感染の第5波が続き緊急事態宣言も継続される中、ワクチン接種の第二回が進み感染者の数も10月末の東京では一日50名を切るようになった。宣言も解除されて様々な行事や催しも以前のように回復に向かっていく。

さて、コロナワクチンの開発が従来の弱毒化したものから遺伝子レベルのmRNAを修飾した形で体内に入れられ、RNAセンサーに反応しないでたんぱく質を作り、抗体を形成する技術を発表されたのが10年前のことである。この研究は今年のノーベル賞の候補とも言われるラスカー賞を受賞したカリコ氏とワイスマン氏との共同研究によるものである。この研究はファイザー社やモデルナ社のワクチン注射開発に貢献して、全世界のコロナ感染患者を救うようになったと思われる。さて、我々ゴルフ同好会のメンバーで約50年前に英国の科学雑誌「ネイチャー」に論文として発表された51回卒で東京大学の大学院にて博士号を取得後アメリカに留学していた古市泰宏さんである。その内容はmRNAが分解されやすい性質を持つが、その構造の中でメチル基をもったキャップの存在を発見し、細胞内でたんぱく質を合成することを解明したものである。この研究は蛋白質合成の起点として多くの研究者から評価を受けているとのことである。

今年も6月と10月の二回の例会を開催した。第97回の例会(6/9)は、コロナ感染が増える一方メンバーが2回目のワクチン接種が終了していることから開催した。コースは紫C.C西コースをスタートした。44回卒の高木さんが緊急手術との連絡を受けて8名の参加となったが、快晴の下優勝は47回卒の小国さんがBGで獲得し、準優勝には48回卒の川上さんでした。試合は新ペリエ方式を取り入れて、隠しホール影響で最後まで気を抜くことなく懸命にボールを打った。

そして10月14日に開催した第98回の例会は同じく紫C.C西コースからの出発でした。連日雨が降り続けていたがメンバー皆の日頃の心がけがよろしいのでしょうか、当日は快晴で半袖のシャツで廻られる人がいるほどの暖かさであった。コロナの猛威で練習不足が影響したのでしょうか、球がまともに当たらなかったり、寄せやパターで苦勞している様子でした。その様な状況にあって、やはり実力者の47回小国さん、48回の川上さんが前回に引き続き優勝、準優勝でした。BGは小国さんと56回卒の金さんでした。金さんはハンディキャップに恵まれず残念な結果となったが次回に期待したいとのことでした。参加者の半分以上が送迎バスを利用するなどもあり、また高齢化が進み安全運転をせざるを得なく、100回の記念例会まで健康でみんなと一緒にラウンド出来る日を楽しみに再開を誓った。第99回は5月の予定です。

(㊦、S43年卒 石橋 嘉夫)



㉗、H2年卒 紺谷 徹

3年前にランニング腕時計（GARMIN）を購入してから、少しずつ走り始めました。GPSで記録が残るのがうれしくて、毎週末、近所の河川敷をひたすら走っています。今年度の走行距離合計1,768km。本州縦断ぐらいですかね。

㉘、H22年卒 宅間祐太郎

4月末に引っ越すことになりまして、物件探しを始めました。しかし時期が時期なためか、またコロナ禍で誰も引っ越さないためか、選べる物件が全くない！この首都圏遠久朶が発行される頃、果たして私は住所不定を免れているのだろうか？

㉙、H9年卒 宅和 知文

数年前から始めた筑波山のジョギングのコースでは梅の花が綺麗に咲く季節になった。苦勞していた長男がようやく今年に大学進学を決めてくれてホットすると同時に、引越し準備などで忙しい春になりそうです。

㉚、S48年卒 中西 憲幸

毎週のオンライン情報交換会2年間続く  
1983年に異業種交流で知り合った10人の仲間と、毎年数回の情報交換会（飲み会）を開催していた。しかし、コロナ禍で会合は中止になり、その代わり2020年4月よりオンライン情報交換会を毎週火曜日の夕方に90分間実施している。話題は多岐にわたっているが、各自が抱えている病気のことが多い。

㉛、H9年卒 平岡 良隆

週末に1週間分の食材を買い込むことが習慣、いつも決まったスーパーでは目新しい食材にも出会えないので、新規開拓として飛び

込んだのがドン・キホーテ。食品を扱う店舗は少ないと思いますが、ドンキらしい圧縮陳列で買い物の楽しさは抜群。ただ、頻繁に陳列景色が変わるので、探し物は見つからない。

㉜、H9年卒 木村 徹

娘が3月に中学校を卒業しました。なぜか小学校・中学校とPTA役員（会長含む）をやりましたが、とりあえずこれで一段落です。無事に希望の高校に合格したので、4月からJKです。子どもの成長は早いですね。

㉝、S54年卒 道見 茂樹

とうとう高齢者の仲間入りになったのですが、何も変わっていません（と自分だけが思っているのだろう）。ただ、電車に乗りシルバーシートが空いていたら座ってもいいかな、という気持ちが少しだけ出てきました。

㉞、H元年卒 畠山 伸二

コロナ前に大型バイク免許を取って、リターンライダーで週末色々なところに出かけています。何かツーリングクラブに入ろうかと思ったらコロナ禍でボッチライダー満喫。

㉟、H10年卒 高瀬 明子

感染の落ち着いている時期を狙って、今年の冬は久しぶりにスキーに出かけました。スキー場も感染対策をしっかりと取っています。4人乗りリフトは同一グループを除き最大2名まで、ゴンドラも他のグループとは同乗させずお客さんが1人で乗っている姿に最初は驚きました。

㊀、H2年卒 齋藤みのり

転職とコロナでゴルフに行く回数も減ってしまい残念だったのですが、2022年初っ端のラウンドで初めてスコアが100を切りました。快挙！しかし次にラウンドするのが怖くなり

ました（笑）。

㊸、H30年卒 丸茂 勇輝

皆さん、さつまいもは好きですか？「さつまいも博」に行きました。甘くてねっとりした安納芋が好きです。投票したお店が準グランプリでした。3か月熟成で高めた糖度が決め手。

私もサウナにハマってそろそろ3か月。

㊹、H10年卒 川邊 香代

自宅で過ごす時間が増えたため、2か月のチワワを迎えました。テレワークで著しく運動量が減っていましたが、仕事後に犬と散歩するのが日課になりました。躰で苦勞することもありますが、犬がもたらす癒しや豊かな時間に感謝！

㊺、H9年卒 膝附 由香

毎年行っていた海外旅行に行けなくなって2年。代わりに(?)犬を飼い始め、時折、犬連れ国内旅行しています。テレワークではほぼ引き籠り状態で、毎日一緒にいたからかすっかり甘えん坊になってしまいました。でも、かわいいから許しちゃう。

㊻、S54年卒 大西 弘章

心境と近況

私は、大手製薬会社に就職し、65歳まで勤め上げたところです。この組織の一員であることが自分のアイデンティティでした。リタイアの日が近づくにつれ、空っぽの自分に気付きました。そこから自分探しと自分のアイデンティティ形成が始まりました。紆余曲折しながらも漸くたどり着いたのは、個人事業主として自分らしいベーグル屋を営むこと。世にも不思議な物語は続きます。現在、東京の自宅（東京オフィス）を離れ、奈良の実家（奈良事業所）に単身赴任中です。

店名：ベーグル&プチラボ ナッツくん

当店ホームページQRコード：



㊼、S47年卒 松本茂外志

老いの道に従順に身を委ねるだけの老後より、行く手に苦勞の待ち構えているのがわかっていたとしても、とにかく今の生活を充実させることに全力を振り絞る生き方をしたい。この考え方で、今でも現役続行中です。

## 令和3年度 首都圏支部活動報告

### 1. 定期総会

令和3年度首都圏支部定期総会は、6月26日（土）14時よりオンライン（Zoom）にて実施いたしました。

### 2. Zoomでの集い

本年度より新たに実施いたしました。オンライン（Zoom）で食事をしながら自由に会話することを目的とした、途中参加／退席可能な気軽な会となります。当日は小部屋（ブレイクアウトルーム）にて少人数での会話もできるようにいたしました。

第1回 令和3年11月12日（金）

18:30～21:00

17名参加（46回卒～108回卒）

第2回 令和4年3月26日（土）

17:00～20:00

26名参加（46回卒～108回卒）

### 3. 幹事会

令和3年4月より毎月1～2回、オンライン（Zoom）にて開催。

## 総会参加者・年会費納入者 推移

	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年
総会 参加者	61名	72	70	75	—	50
年会費 納入者	300名	287	283	286	259	245

## 令和3年度 首都圏支部役員

支部長 : ㉕、H10年卒 高瀬 明子  
 副支部長 : ㉗、S61年卒 阿部 浩之  
           ㉘、H8年卒 平岡 良隆  
 幹事長 : ㉖、S54年卒 道見 茂樹  
 副幹事長 : ㉙、H2年卒 紺谷 徹  
           ㉚、H元年卒 畠山 伸二  
           ㉛、H22年卒 宅間 祐太郎  
 幹 事 : ㉜、S48年卒 中西 憲幸  
           ㉝、S46年卒 加藤 健二  
           ㉞、H2年卒 齋藤 みのり  
           ㉟、H9年卒 膝附 由香  
           ㊱、H9年卒 木村 徹  
           ㊲、H9年卒 宅和 知文  
           ㊳、H10年卒 川邊 香代  
           ㊴、H30年卒 丸茂 勇輝  
 監 事 : ㊵、S47年卒 松本 茂外志

## 令和3年度会計報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

I. 収入の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
前年度繰越金(普通預金)	2,975,685	2,975,685	
年会費	600,000	546,094	
総会参加費	0	0	
普通預金利息	25	24	
合 計	3,575,710	3,521,803	

II. 支出の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
総会費	50,000	94,160	
会合費(幹事会等)	10,000	0	
事務通信費	40,000	53,486	
同好会補助費	40,000	40,000	
会報発行費	400,000	372,674	
出張費	0	0	
事務局費	70,000	66,000	
次年度繰越金(普通預金)	2,965,710	2,895,483	
合 計	3,575,710	3,521,803	

## 令和4年度予算(案)

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

収入の部		支出の部	
項 目	収 入	項 目	金 額
前年度繰越金(普通預金)	2,895,483	総会費	90,000
年会費	600,000	会合費	10,000
総会参加費	0	事務通信費	50,000
普通預金利息	24	同好会補助費	0
		会報発行費	400,000
		出張費	60,000
		事務局費	66,000
		次年度繰越金(普通預金)	2,819,507
合 計	3,495,507		3,495,507

# 令和3年度 支部年会費納入者一覧

## (合計 245名)

※令和3年4月から令和4年3月末までに年会費を納入された方の一覧です。

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
39	昭和26	米丸洋子	47	昭和35	安川俣子	52	昭和40	是枝 潤
40	昭和28	眞船恒雄	47	昭和35	橋 眞郎	52	昭和40	田村秀明
41	昭和29	松田利子	48	昭和36	油木劭之	53	昭和41	安西慶子
41	昭和29	上銘外喜夫	48	昭和36	川上 惇	53	昭和41	岩崎孝一
42	昭和30	荒川泰藏	48	昭和36	川上芳子	53	昭和41	木村信子
42	昭和30	佐藤哲男	48	昭和36	久保一夫	53	昭和41	坂本理英子
42	昭和30	種谷 豊	48	昭和36	定留温子	53	昭和41	中村和子
42	昭和30	柳 文平	48	昭和36	樋口明彦	53	昭和41	林 聰
42	昭和30	渡邊 静	48	昭和36	前田伸子	53	昭和41	曲淵徹雄
43	昭和31	上野謙爾	48	昭和36	三浦 晋	53	昭和41	南 法夫
43	昭和31	久郷正孝	48	昭和36	村杉和子	53	昭和41	村上則彦
43	昭和31	車田知之	48	昭和36	吉田誠一郎	54	昭和42	小木曾周子
43	昭和31	古徳 治	49	昭和37	小川信吾	54	昭和42	佐藤和恵
43	昭和31	脇田秀雄	49	昭和37	鈴木国男	54	昭和42	庄司孝市
43	昭和31	森 博	49	昭和37	林 幸子	54	昭和42	庄司幸子
44	昭和32	紙谷得子	49	昭和37	廣江光代	54	昭和42	長谷見蓉子
44	昭和32	川村隆子	49	昭和37	古谷 孝	54	昭和42	森川礼子
44	昭和32	車田千秋	49	昭和37	三尾美和子	54	昭和42	竹内美千代
44	昭和32	鈴木芳子	49	昭和37	見義治子	55	昭和43	石橋嘉夫
44	昭和32	高木良造	50	昭和38	飯田武治	55	昭和43	井上みどり
44	昭和32	高瀬清孝	50	昭和38	木原幸弘	55	昭和43	太田晴美
45	昭和33	大郷利治	50	昭和38	定塚紀志子	55	昭和43	鈴木 隆
45	昭和33	佐藤 忠	50	昭和38	高野祐子	55	昭和43	滝沢春美
45	昭和33	佐藤池鶴子	50	昭和38	野中美代子	55	昭和43	布施米子
45	昭和33	竹道孝慶	50	昭和38	前田一郎	55	昭和43	牧野由紀子
45	昭和33	橋浦十八	50	昭和38	宮澤英雄	55	昭和43	松野 萌
46	昭和34	川畑耕祐	51	昭和39	石塚典子	55	昭和43	南 菖子
46	昭和34	齊藤諒三	51	昭和39	加賀美壯一	55	昭和43	井上満子
46	昭和34	西岡碩枝	51	昭和39	島田庄蔵	55	昭和43	奥村啓輔
46	昭和34	結城澄子	51	昭和39	島田輝子	55	昭和43	山口節子
46	昭和34	和志武行子	51	昭和39	諏訪庸夫	56	昭和44	加藤正子
47	昭和35	伊勢谷篤弘	51	昭和39	塚越由美	56	昭和44	金 知出
47	昭和35	須藤昌二	51	昭和39	那須邦久	56	昭和44	鈴木英世
47	昭和35	関 誠	51	昭和39	古市郁子	56	昭和44	深澤 宣
47	昭和35	古川貞子	51	昭和39	宮城 淳	56	昭和44	山本寿美子
47	昭和35	室生知子	51	昭和39	宮城征子	56	昭和44	山岸悦子
47	昭和35	安川正巳	52	昭和40	小野澤カツ子	56	昭和44	山本 恵

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
56	昭和44	加藤正子	62	昭和50	八谷京子	72	昭和60	朝比奈正博
57	昭和45	天笠之珠子	63	昭和51	萩野幸司	72	昭和60	上田(奥田)伊津子
57	昭和45	伊藤要一	63	昭和51	本郷富江	73	昭和61	金子智彦
57	昭和45	北野栄一	64	昭和52	坂口一夫	74	昭和62	高土居雅法
57	昭和45	柴田千枝子	64	昭和52	鈴木利之	75	昭和63	池田 靖
57	昭和45	関真知子	64	昭和52	西山 祥	76	平成元	朝倉 渡
57	昭和45	中島和彦	64	昭和52	真船英一	76	平成元	畠山伸二
57	昭和45	服部 仁	65	昭和53	井上祐司	76	平成元	佐藤ゆかり
57	昭和45	藤村元成	65	昭和53	渡辺茂美子	76	平成元	小林史明
57	昭和45	本田伊都子	66	昭和54	新井一郎	77	平成2	河南三郎
57	昭和45	松林久一	66	昭和54	井上 豊	77	平成2	紺谷 徹
57	昭和45	奥村淳子	66	昭和54	井上彩子	77	平成2	増本純也
57	昭和45	古屋典子	66	昭和54	鹿田史紀	77	平成2	的場義典
58	昭和46	石井誠司	66	昭和54	金子美代子	77	平成2	山本善一
58	昭和46	石田行知	66	昭和54	川崎英之	77	平成2	齋藤みのり
58	昭和46	上田宗央	66	昭和54	金原祐吉	77	平成2	織部幸子
58	昭和46	加藤健二	66	昭和54	杉原圭亮	78	平成3	坂東裕志
58	昭和46	千田耕平	66	昭和54	鈴木千世	78	平成3	松本千香
58	昭和46	穂苺 茂	66	昭和54	原 信行	80	平成5	渡邊常作
58	昭和46	松田閑枝	66	昭和54	真船恭子	82	平成7	井上博文
58	昭和46	村田悦郎	66	昭和54	道見茂樹	84	平成9	平岡良隆
58	昭和46	吉富恭助	66	昭和54	道見優子	84	平成9	金子卓嗣
59	昭和47	清水善行	66	昭和54	宮田康子	84	平成9	正力(橋場)美香
59	昭和47	松本茂外志	66	昭和54	坂本敏郎	84	平成9	ガブシ(羽生)明子
59	昭和47	村上香代子	66	昭和54	坂本真理子	84	平成9	木村 徹
60	昭和48	加藤マリ子	67	昭和55	曾我真理子	84	平成9	宅和知文
60	昭和48	田中加代子	68	昭和56	笹又(清水)理央	85	平成10	新井延香
60	昭和48	末木愛子	69	昭和57	小林真弓	85	平成10	堀口(高瀬)明子
60	昭和48	鈴木むつ子	69	昭和57	塚本尋子	85	平成10	本田唯子
60	昭和48	千田豊子	69	昭和57	竹内 誠	85	平成10	岡田英之
60	昭和48	田谷栄子	70	昭和58	浦本博志	86	平成11	大野(黒崎)いづみ
60	昭和48	中島徳子	70	昭和58	笠原貴子	86	平成11	鶴飼政志
60	昭和48	中西憲幸	70	昭和58	茂呂今日子	86	平成11	鈴木智之
60	昭和48	守屋 修	70	昭和58	山口貴史	87	平成12	穴澤和美
60	昭和48	丸山公代	71	昭和59	大川恵子	88	平成13	内野 章
61	昭和49	梶谷早苗	71	昭和59	黒田豊志	89	平成14	設楽邦夫
61	昭和49	杉林堅次	71	昭和59	永田嘉弘	89	平成14	伏木洋司
61	昭和49	富永節子	71	昭和59	松井哲夫	93	平成18	齋藤智之
61	昭和49	中村直隆	72	昭和60	内山 務	95	平成20	市原克則
61	昭和49	富永英嗣	72	昭和60	嵯峨 学	96	平成21	坂本卓也
62	昭和50	西山信右	72	昭和60	信濃豊進	97	平成22	宅間祐太郎
62	昭和50	萩野洋子	72	昭和60	根岸邦枝	99	平成24	今井亮太

回	年卒	氏名
		旧職員及び大学院修了生 渡辺和夫
		旧職員及び大学院修了生 中込和哉
		旧職員及び大学院修了生 根本信雄

回	年卒	氏名
		旧職員及び大学院修了生 竹口紀晃
		旧職員及び大学院修了生 辻 泰弘
		薬学部長 酒井秀紀

回	年卒	氏名
		薬学部副学部長 松谷裕二
		無記名 1名

## — 首都圏支部年会費振込みのお願い —

昨年度の総会において支部年会費2,000円への値上げに賛同いただきました。

値上げ後初めての収支決算になりましたが、2021年度は10万円弱の支出超過になりました。その前までは30～40万円の支出超過であったことを考えると、運営上かなり楽になったと感じています。しかしながら、会費納入者の一覧をみますと若い年齢層が少ないため将来的な不安もあり、これまで以上に新入会員の勧誘など会員増加を図っていかなくてはと強く思う次第です。

ご負担が増したことについて誠に申し訳なく思っておりますが、当会には他に収入源はなく、皆様一人一人の会費により会を運営しなければならないことを是非ご理解賜りたく、首都圏支部年会費の振込みをお願いいたします。

なお、コンビニ用の振込用紙には振込手数料を含めた金額が印刷してあり、首都圏支部には丁度2,000円が入金されることとなります。また、会費納入を銀行振込でも行っていただけるよう、口座情報を下記に記載しましたので、振込用紙による振込みよりもインターネットバンキング経由に慣れている方、年会費の他に寄付いただける方には、ぜひご利用いただければと思います。

会費を振り込んでいただいた方は、会報「首都圏遠久朶」にお名前を掲載いたします。よろしくお願ひ申し上げます。

北陸銀行新宿支店

口座名：富山薬窓会首都圏支部

口座番号：普通2552140

## ✉ メーリングリストへの登録のお願い ✉

昨年初めて首都圏支部総会をWeb形式で開催いたしました。新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、これからもWeb形式単独又は併用での開催になることが想定されます。また、こちらにも初めてで新たなイベント企画として、Zoomのブレイクアウトルームを用いた少人数グループでの集まりを2回開催しました。

その際には、皆様のメールアドレスに招待メールをお送りし、そこに記載された情報をクリックいただくことで、パソコンやスマートフォンなどから参加いただくこととなります。

そこで、この機会にぜひ、登録をお願い致します。右にあるQRコードをスキャンすると、富山薬窓会首都圏支部メーリングリスト登録画面になりますので、そこにお名前、メールアドレス、卒業年(又は回)を入力してください。また、下記アドレスからも同じように登録できます。(既に登録いただいている方は再度の登録不要です。登録したかどうかよくわからない方は、重複してもまったく構いませんので、登録をお願い致します。)



<https://forms.gle/NLwy1BmSPUuPMZZ98>

登録いただいたアドレスは薬窓会首都圏支部からの連絡以外に利用いたしません。個人情報の管理には十分配慮いたします。ご協力宜しくお願い致します。

## — 編集後記 —

昨年未から急激にコロナ感染者も減り、やっとまともな世の中に戻るのかと思った矢先、年明けからの感染爆発で今年もまだまだ油断できない年になるのかと少し落胆しています。また、世界ではコロナ以上にロシア、ウクライナの戦争が大きな話題となっており、日本でもニュースで取り上げられない日々はないのではないのでしょうか。遠い国の出来事のように感じますが、この影響で日本でもガソリンが日々値上げされ、また飛行機もヨーロッパ便がロシア上空を飛行できなくなったため、色々と生活に支障が出ている方も多いのではと思います。

悲しいニュースで書き始めてしまいましたが、この一年間で富山大学薬学部としては素晴らしいニュースもあり、その一つが2019年の首都圏遠久祭にも100字通信を寄稿していただいた富山大学の先輩である古市先生がノーベル賞候補に挙げられ、また日本医療研究開発文部科学大臣賞を受賞されたことなのではないでしょうか。また、このニュース程大きい話ではないですが、薬窓会首都圏支部としても今年は新たに多くの取り組みを行ってきました。一つは昨年の総会で初のWEB形式での総会を試みたことですが、他の薬窓会支部はコロナ禍により総会を断念するケースが多かった中、私たちの支部の経験はこれからの総会のあり方として一つの可能性を提示できたのではないかと考えています。今年はまだハイブリッド開催にするか、あるいはWEBのみにするかは直前になるまで決められない状況ですが、いずれにせよ開催することで首都圏から薬窓会の活性化を図っていけるよう努めたいという思いですので、皆様のご出席をどうぞ宜しくお願い致します。

今年はオンラインの集いも2回ほど開催させていただきました。試行錯誤して行っているのもあり、まだまだ小規模な集まりですが、第一回から第二回と参加人数も増えており、またオンラインの利を活かして首都圏以外の方も参加していただくことができ、楽しめていただけたのではないかと思います。今後このような取り組みは継続して行っていきたいと考えておりますので、皆様におきまして是非ともお時間に余裕のある際は参加いただければと思います。

(副幹事長 ㊦、H22年卒 宅間 祐太郎)

## 事務局等連絡先

富山薬窓会首都圏支部事務局

(株) 同窓会事務局：info@egaomax.com

電話：0120-10-9870

富山薬窓会首都圏支部幹事長

道 見：toyamayakugakubu@yahoo.co.jp

## 令和4年度「富山薬窓会首都圏支部総会」のご案内

日 時：令和4年6月25日（土） 14：00～17：00（開場13：50）の予定

開催方式：①現地とオンラインのハイブリッドもしくは②オンラインのみ

\*今年にはコロナ禍の状況を鑑み、残念ながら懇親会は実施しません。

\*総会の開催方式は2週間前までに決定し、事前登録頂いたメールアドレスおよび富山薬窓会ホームページ内の首都圏支部のページにてお知らせいたします。

HP:<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/okuda/shibu/syutoken/index.html>

場 所：「AP東京八重洲通」12階 F室

住 所：東京都中央区京橋1-10-7（東京駅八重洲口地下街24番出口）

<https://www.tc-forum.co.jp/kanto-area/ap-yaesu/>

電 話：03-6228-8109

会 費：無料（\*①ハイブリッド形式になった場合の現地参加も無料です）

話題提供 1 佐藤 卓氏（第84回）

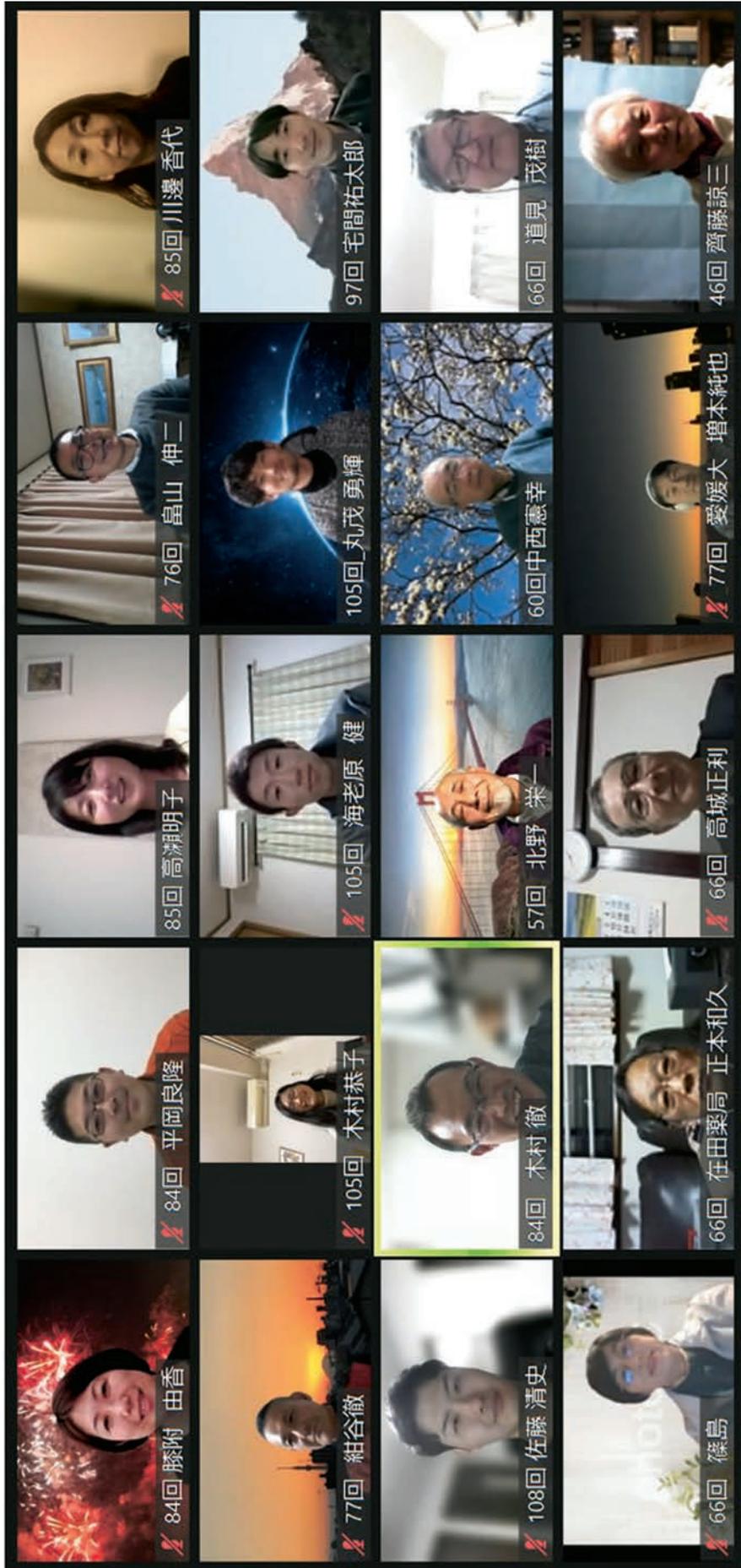
『免疫「から」体を守る仕組みの解明』（東京医科歯科大学）

2 小森谷さやか氏（第84回）

『自治する人々を増やしたい！“市民政治ネットワーク運動”とは』（つくば・市民ネットワーク）

\* 同期の方々をお誘いいただき、多くの方のご参加お待ちしております。





首都圏支部web懇親会（3月26日）写真